



第四回 東北お遍路俳句コンテスト
第五回 東北お遍路写真コンテスト

作品集

東北お遍路俳句コンテスト選考委員



黒田 杏子 氏



夏井 いつき 氏

俳句

東北お遍路写真コンテスト選考委員



青柳 健二 氏



結城 登美雄 氏

写真

2020

震災から十度目の三月を迎えました。十年ひと昔とはいいますが、私たちの周りの景色はまだサイズの違うシャツを着たみたいで、なかなか馴染み切れない心地です。新しい土地に住まうことになった人たちに早く新たなコミュニケーションができ、以前のように支え合う暮らしが生まれることを期待していましたが、コロナは無残にもそのつながりを分断します。この十年で、今こそ「絆」を叫ぶ時ののだと痛感します。

東北お遍路プロジェクトは東日本大震災の被災地（福島県いわき市から青森県八戸市）に、千年先まで語り継ぎたい震災の物語を集め、慰霊と鎮魂の巡礼地を設定し、遅々たる歩みですが毎年調査を続け、その数も92ヶ所になりました。しかしまだみなさまの思いに届いていない所もあるのではないのでしょうか。ぜひ、未来に語り継ぎたい物語や命をつないだ場所がありましたら、私たちにご連絡をお願いいたします。

今回の作品集は私どもが主催します第四回俳句コンテストと第五回写真コンテストの優秀作品を掲載しました。また特集として仙台市の阿部堅市様の「東北お遍路巡礼地百五句」を掲載しました。先日阿部様が急逝されたこと知らされ驚きましたが、初回から頂いた俳句が百五句もありました。丁寧に巡礼地を折込んだ俳句を詠まれている、私たちの活動への応援句と受留めました。感謝とともにご冥福をお祈り致します。

東北お遍路プロジェクト代表・新妻香織

訪ねてみよう！

東北お遍路巡礼地92ヶ所

青森県

- 八戸市
- 階上町

蕪嶋神社

大蛇小学校の2つの津波の碑

岩手県

- 洋野町
- 久慈市
- 野田村
- 普代村
- 田野畑村
- 岩泉町
- 宮古市

津波慰霊碑

ケルン・鎮魂の鐘と光

大鳥居と楓の木

普代水門

机浜番屋群／宝福寺／カルボナード島越駅

小本小学校奇跡の130段の階段

震災メモリアルパーク中の浜／たろう観光ホテル跡／田

老の防波堤／姉吉の大津波記念碑

城山公園／蓬菜島

御蔵山／鯨と海の科学館

鶴住居メモリアルパーク／私設こすもす公園（希望の壁画）／釜石鶴住居復興スタジアム／盛岩寺／津波でんでんこ・浜町避難道路

津波記念石／津波を見ていた3本の大木

プラ・大スギと末音崎展望台

奇跡の一本松／普門寺／箱根山の希望の灯りと小友地藏

尊／陸前高田オートキャンプ場

宮城県

- 気仙沼市
- 南三陸町
- 石巻市

早馬神社／紫神社／みちびき地蔵／尾崎大明神／地福寺

岩井崎（龍の松、秀ノ山雷五郎像）／古谷館八幡神社／旧気仙沼向洋高校／唐桑半島とヒジターセンター

上山八幡宮

波来

石巻ハリストス正教会／宮城県慶長使節船ミュージアム

／門脇町を見守るお地藏さま（西光寺）／日和山公園／普誓寺／十八成浜白山神社／大川小学校／門脇小学校

目次

訪ねてみよう！ 東北お遍路巡礼地92ヶ所 3

第四回東北お遍路俳句コンテスト作品

黒田 杏子氏選 「入選十五句」 4

夏井 いつき氏選 「入選十五句」 6

選外作品五十五句 8

阿部堅市「東北お遍路巡礼地百五句」 10

第五回東北お遍路写真コンテスト作品

最優秀賞一点 14

優秀賞二点 15

佳作十点 16

写真コンテスト総評 18

コンテスト賞品当選者発表 19

東松島市

貞観地震の千年石碑と観音寺／旧野蒜駅プラットホーム

松島町

瑞巖寺・観瀾亭

七ヶ浜町

同性寺

多賀城市

末の松山（宝国寺）

仙台市

蒲生干潟／浪分神社／中野地区地域モニユメント／荒浜地区住宅基礎群／旧仙台市立荒浜小学校

名取市

閑上漁港と日和山／仙台空港

岩沼市

千年希望の丘

岩沼市

貞山運河

岩沼市

わたり温泉鳥の海

亶理町

戸花山／旧中浜小学校と千年塔／磯崎山公園

山元町

龍昌寺／安波津野神社／大戸浜観音堂

新地町

津神社／松川浦／長命寺／稻荷神社（寄木神社）

相馬市

山田神社／御刀神社／北菅浜神社／相馬小高神社／日鷲神社

南相馬市

大聖寺／請戸小学校跡と大平山霊園／両竹諏訪神社と復興祈念公園（浪江町）

浪江町

興祈念公園（浪江町）

双葉町

初発神社

大熊町

福島第一原子力発電所／熊川海水浴場

富岡町

夜ノ森駅と桜並木

植葉町

天神岬／Jヴィレッジ

広野町

修行院

いわき市

稲荷神社／道山林／塩屋崎灯台と薄磯・豊間海水浴場／アクアマリンパーク／勿来の記憶の広場



黒田 杏子氏 選評

天 ふるさとは陸前高田秋燕

菅原 華（東京都台東区23歳）

華さんの故郷陸前高田は津波にさらわれて、すっかり景色が変わってしまいました。その変わり果てた光景の空を今秋燕がビュンビュンと舞っています。現在は東京に住んでいるけれど、私の古郷ふるさはここです。と言いつて見事な作品となりました。

地 除夜の鐘三陸の海底に尽く

菅原 和子（東京都台東区86歳）

作者の和子さんは、先ほどの華さんのお祖母さん。長い俳歴を持つベテラン俳人。茶道の教授でもあります。嫁いでこられた陸前高田の家屋敷ほかすべて海の底に。除夜の鐘の句として凄く作品。

人 稲穂満つ野蒜の駅の赤鉄路

菅原 有美（東京都台東区59歳）

なんとこの作者、華さんの母であり、和子さんのご長女。大変な事です。三代の女性が揃って応募され、家で「天」「地」「人」の作品を示されたのです。知人なので作品を頂いたではありません。三代それぞれが秀句を寄せられたのです。感動ですね。快挙です!!

卒業の机にいっぱい土砂は

渡部 稜也（愛媛県松前町21歳）

作者は若干21歳。3・11の時は何歳でいらしたかと数えて驚きます。俳句という世界最短の詩。その底力をあらためて知らされました。想像力の勝利。このような作品の出現により、東北お遍路俳句大会は輝くのです。

照らすべき雲なき月よ東北よ

松本 利幸（山口県光市71歳）

山口県光市に住む作者の作品。東北・みちのくの人々に対するエールと受けとめました。作者の深い想いが一語一語にしっかりとこめられていて、励まされます。この俳句大会の存在と拡がりを実感できて喜びました。

入選 除染してまた除染して生きる春

堀 卓（千葉県松戸市48歳）

教え子は園児を守り流星に

岸 浩子（岩手県陸前高田市64歳）

祈るとは海を見ること白日傘

三野 宮照枝（青森県八戸市67歳）

家族みな連れ去りし海波静か

南部 努（宮城県仙台市69歳）

春かなし何も変わらぬ十年目

海老沢 法導（宮城県仙台市・71歳）

生き残り鶴を折るのみ三月来

小野 豊（宮城県仙台市61歳）

記憶みな水につながる三月来

古市 文子（福島県いわき市78歳）

崖下のさくらが墓標怒涛音

西山 逢美（福島県いわき市85歳）

灯台の光慈母観音の瞳

吉田 ゆかり（福島県いわき市45歳）

果てしなき廃炉作業や星祭

平子 玲子（福島県いわき市73歳）



夏井いつき氏 選評

天 みちのくの遍路へ先をゆずりけり 曾根新五郎 (東京都新島村 65歳)

心にさまざまな思いを抱き、東北お遍路をする人たちが増えてきたのでしょうか。遍路の心と物見遊山では、自ずと歩幅も速度も違ってきます。「遍路」の後ろ姿を見送りつつ、「みちのく」の遅い春の訪れを眺める作者。かの三月の記憶を含んだ春は、残酷なまでに美しい春なのでしょう。

地 陸前なにがしの駅名多し冬隣 梅田昌孝 (愛知県北名古屋市 67歳)

駅名に残る陸前の名称は、陸前国へのはるかな想いとつながっているのでしょうか。十年前の災害は、その陸前の駅を飲み込み多くの思い出も流してしまつた。しかし、陸前と人々への想いは駅名とともに消えることなく続いてゆく。冬はもうそこに来ています。

人 十年目の瓦・十字架・秋の雲 林美佐子 (宮城県仙台市 81歳)

多くの物が流されたなか、静かに残っている瓦、教会の十字架。「十」の響きの重さが伝わってくるのです。秋の雲は十年も変わらず、これからも変わらず、見つめ続けてくれるのです。

月宿る庁舎のむくろ遠汽笛 木下あきら (宮城県仙台市 81歳)

いまだ「骸」として存在する庁舎。骨組みだけになつても、月を宿すように月光に包まれるように夜を重ねてゆきます。汽笛が、心にしみじみと響く夜です。

卒業の机にいつぱいの土砂は 渡部稜也 (愛媛県松前町 21歳)

かつての学び舎も濁流の洗礼を受け、残骸として今、有るのです。卒業するまで座っていた机も土砂に飲まれてしまつた。それも、「いつぱい」の土砂です。切れのない下五からは、土砂が襲つた学校の情景へ痛みを持って続いてゆきます。

入選 弟の新米配る仮設棟 鈴木睦子 (岩手県盛岡市 84歳)

見えてゐて灯台遠し稲の花 佐藤広和 (宮城県仙台市 59歳)

梅雨晴れの正教会の畳の間 福田良光 (宮城県仙台市 62歳)

さはやかや海面に手振る我れの影 池添怜子 (宮城県仙台市 82歳)

蛇穴に入る結願は廃炉窟 島文庫 (宮城県仙台市 69歳)

ひと昔というほど経たりアワダチソウ 新谷香織 (福島県相馬市 60歳)

秋高し赤松香る勿来関 森高武 (福島県いわき市 71歳)

穂絮とぶ帰還困難地区の道 伊藤弘子 (福島県いわき市 73歳)

風薫る被災跡地の町のバス 羽矢真人 (千葉県富津市 76歳)

星月夜ひょうたん島はもう寝たか 高橋富久江 (千葉県君津市 78歳)

選外作品五十五句

守られて命がひとつ春の野辺
 されど海は母なるところ遠火花
 鯖雲の下に鎮むる五大堂
 亡き母と同行二人の遍路行く
 秋彼岸尋ね尋ねて同性寺
 葉月潮浜の再生一歩ずつ
 海何処一本松の声をきく
 小流れも生家も消えぬ赤とんぼ
 また一つ遺構の消ゆるつくつくし
 五百羅漢みなおだやかに秋の蝶
 小四のままの娘や赤とんぼ
 空蟬や草払ひつつ海嘯碑
 淋しさの果てぬ我が世ぞ桜の旅
 瓦礫野になりても我家雉子鳴く
 一本松高田を照らす灯台守
 秋うららいのちの石碑なぞりゆく
 連風や津波の浜に戯れて
 潮の香の錆し鉄骨朝の虹
 町並も変り秋雨しととと
 握りしめ琥珀に祈る久慈の夏
 夕凧に立たずみ黙す龍の松
 基礎群に夏草茂り天下取る
 舞い散る葉平穩祈りて瑞巖寺
 杉木立なき参道や冬の朝
 夏の海色とりどりに傘の花
 余寒なほ教室の壁鎮魂歌

岩渕 真智子 (北海道函館市 67歳)
 村田 加寿子 (青森県八戸市 69歳)
 南 美智子 (青森県鱒ヶ沢町 81歳)
 小松 紀子 (秋田県大仙市 69歳)
 及川 貞志 (岩手県遠野市 94歳)
 豊島 喜美子 (岩手県宮古市 64歳)
 吉川 香廉 (岩手県盛岡市 43歳)
 二階堂 光江 (岩手県盛岡市 66歳)
 阿部 ゆき子 (岩手県盛岡市 68歳)
 大信田 宏子 (岩手県盛岡市 72歳)
 畑 育子 (岩手県盛岡市 67歳)
 菊池 留美子 (岩手県盛岡市 72歳)
 武田 本子 (山形県東根市 85歳)
 小松 隆碧 (宮城県多賀城市 71歳)
 阿部 澄江 (宮城県大崎市 66歳)
 今野 紀美子 (宮城県塩釜市 80歳)
 板垣 美樹 (宮城県東松島市 55歳)
 八島 敏 (宮城県仙台市 74歳)
 佐藤 妙子 (宮城県仙台市 78歳)
 高橋 さとか (宮城県仙台市 70歳)
 翠風 (宮城県仙台市 69歳)
 佐藤 嘉子 (宮城県仙台市 77歳)
 早坂 ひろ子 (宮城県仙台市 82歳)
 土生 良枝 (宮城県仙台市 72歳)
 庄子 源六 (宮城県仙台市 82歳)
 小野 邦子 (宮城県仙台市 78歳)

入彼岸亡友の名呼ばふ慰霊の碑
 鐘渡る彼岸花燃ゆ津波跡
 涙して祈る親子や海施餓鬼
 災いもみんなつつんで仲秋の月
 学び舎に響く声なき新学期
 鐘撞きも板につきたる菊日和
 幼子も描きて伝ふ絵灯籠
 花の雨夜ノ森駅のほの灯り
 野座仏の倒れしままや忘れ花
 夏空へ防災緑地の松育つ
 行きずりの遍路の会釈さやけかり
 津波禍の賽の河原の野紺菊
 早春や被災の浜に家並の灯
 秋の潮鎮魂の鐘運び消ゆ
 魂通う潮騒に乗る彼岸舟
 押し黙る原発建屋の冬の月
 入道雲ようやく君に似てきたり
 瑞巖寺抜けがらの吾を納む秋
 三密は此の道に無い遍路行く
 請戸港見詰む母子像いわし雲
 人住めぬ家や健気に石露の花
 去年の日を忘れずに咲く曼珠沙華
 炎天に朽木の匂いサンファン号
 眠らない希望の壁画山眠る
 つゆ草や忘れたくなし忘れたし
 義家の騎馬像に飛花落花かな
 震えてる一本松に襟巻を
 三月十一日誰にも言はず修しけり
 鎮魂の石積みをれば暮早し

須藤 智恵子 (宮城県仙台市 75歳)
 松永 宏子 (宮城県仙台市 80歳)
 高橋 英夫 (宮城県仙台市 72歳)
 小西 徹 (宮城県仙台市 74歳)
 大柳 純 (宮城県仙台市 64歳)
 平塚 漁市 (宮城県名取市 69歳)
 齋藤 美保女 (福島県郡山市 65歳)
 宗像 真知子 (福島県三春町 69歳)
 國分 千恵 (福島県須賀川市 62歳)
 森高 さよこ (福島県いわき市 72歳)
 齋藤 稔 (福島県いわき市 89歳)
 石井 基予子 (福島県いわき市 75歳)
 佐藤 やすこ (福島県いわき市 72歳)
 新妻 洋子 (福島県いわき市 69歳)
 高萩 弘道 (福島県いわき市 84歳)
 中村 正弘 (福島県いわき市 77歳)
 佐藤 香澄 (新潟県燕市 70歳)
 花形 星子 (群馬県前橋市 75歳)
 関口 芳男 (栃木県日光市 62歳)
 飛田 キミ子 (茨城県北茨城市 72歳)
 児玉 孝子 (茨城県北茨城市 76歳)
 増田 信雄 (埼玉県さいたま市 82歳)
 吉村 りつ子 (千葉県柏市)
 明 惟久里 (東京都練馬区 57歳)
 木寺 洋子 (東京都世田谷区 65歳)
 伊藤 一泊 (神奈川県横須賀市 85歳)
 廣瀬 昭美 (山梨県山梨市 44歳)
 合田 マサル (大阪府堺市 81歳)
 井上 昌子 (大阪府堺市 80歳)

青森県

大蛇小ジャンブルジムに海猫の声
津波の碑一頭のみあげはちようの鳳蝶ごめ

岩手県

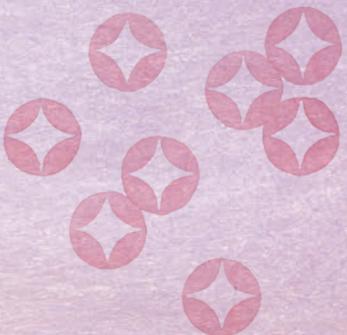
道しるべ久慈に弥生の巡りきて
彼岸進むも退くもならぬ階段
水門の開閉自在こらくがっ小六月
秋の暮一人法師ひとりぼつちの中の浜
中の浜土用硯の深呼吸
蓬萊ほうらいにすまう仙人ひよっこりと
あまちゃんとおまびえの夏中の浜
竜田姫いたこのお告げ積むケルン
御戻りは疫病神か大鳥居
厄落希望の壁画鉄の町
百三十段一気に跣足はだしの子供達
メモリアル想いおこすは春の雪
鳥曇とりもぐりオートキャンプの家族愛
三本の木に耳ありき海猫ごめ渡る
学会も科学もポプラの絮わたのよう
辰巳風沖の鳥山番屋たつみかぜ番
復興もコロナに声なきスタジアム
コロナ禍やひよっこりひょうたん島の夏
乗り合わす気仙大工や杜氏とうじ来る

福島県

復興の夏念仏や大戸浜
安波津野やえびすだいこく神還り
ひばりが原旗指物に夏の風
運動会校庭の土入れ替えて
すが洩りや南相馬の神社かみやしろ
封鎖路の先に獣のかまい時
春疾風福島第一原発に
復旧の夜ノ森さくらたけなわに
土用風富岡町のパトロール
去年こぞことし今年浪江を統べる請戸川
起き上がり小法師いづくも磐座いわくらになつるひ
日雷ひがみなりJビレッジの喫煙所
九年目の悔やみ千屈菜大聖寺
鷹化して鳩となる修行院の寂
十年の堰越せきす勿来なこその植樹祭
夜ノ森に寂鮫鯨あんこうの吊し切り
日盛りのJビレッジに無音の目
三さんの替無音かみわりの人ら夜ノ森に
十年の堰越せきゆ勿来なこその神遊かみあそび

宮城県

つばめくる宮城にふたつ日和山
旅初たびはじめ末の松山鞆御堂まつやまもみどう
鳥の海花月うみやげつを視野に風の陣
正教会祈り捧げる謝肉祭
手数入りは雷らいごろごろと秀ノ山
戻り鳴わたり温泉鳥の海
鳴り砂を泣かしめ九年望潮しおまねき
声もなし雪の住宅基礎群あじさしに
鯨刺あじさしの盛りの声ぞ蒲生瀧
むらぎものころろ温しや鳥の海
戸花山プロジェクトに秋の雲
夏草や末の松山わらじがけ
夏怒濤ハザードマップ日和山おくりまぜ
送南風おくりまぜつつべん低き日和山
だば鯨はせも釣るや貞山運河にて
起承転くものい結ぶ荒浜ゆりあげに
永き日や読み仮名をふる閑上ゆりあげと
時雨忌しぐれ忌や宝国寺より時の鐘
アマビエの絵日盛りの鳥の海
どぶ板の横丁抜けて文殊蘭



その他

マスクする読経の低く籠る声
 法師蟬停まり回らぬ赤灯に
 乞食ねぎ悲喜交交を見知りおり
 隻眼の見据えし世界目貼剥ぐ
 忘れ得ぬ森羅万象西行忌
 草若葉仮設住宅配置業
 不明者は不明のままに浜靱
 南無地藏なにはとまれと餅搗きを
 赤腹や青空映す水鏡
 庭下駄の音にまつわる鳳蝶
 あまびると羅漢のゑがえお若楓
 義経も基督ももしや遍路笠
 雪婆日の下開山手数入りに



時雨忌やみちのおくへと膝栗毛
 はじめてのおつかい瓦礫の先に春
 初泣や婚七年目新生児
 双頭のうわばみ昼の生ビール
 海山を具にカレー今年米
 鎮魂の早春滑み酒嘴長くして
 こみあげる夕焼だんだん登るたび
 遍路道さきがけてゆく渡り漁夫
 湯治宿主の居ない春火鉢
 野馬もゆるる同行二人蓑を剥ぐ
 山笑うこれより鼻は下馬下乗
 嫁叩無口なる庶子左利き
 九年目の春出航の捕鯨船

村芝居化粧も興もいまひとつ
 鬨雲今ぞ描けぬ余白あり
 九年後にまさかまさかの春の乱
 石や木や神の社や人の汗
 蓬菜に眠れる許多放哉忌
 新札と見えぬコロナと海開
 瞬の間とぞ思えり愛の羽根
 巻き直す発条時計夜半の秋
 林立のビルを濯いで秋徹雨
 暑し三・二一の瑕陶の像
 挙手をもて田鼠化して鶉となるや
 橋ひとつ亘りこれより秋の峰
 寸断寸断の家族の絆震災忌
 秋の蠅足りずたらずの暮しむき

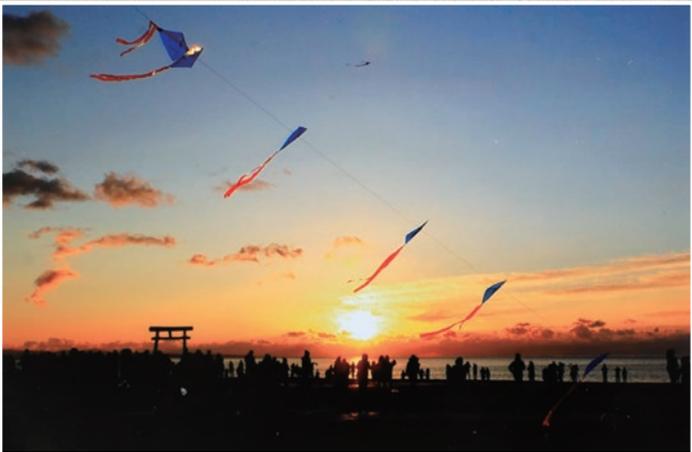


◆ 阿部 堅市 あべけんいち
 バレーボールを愛し、文学など無
 縁な生活だったが、50歳で体を壊
 したのを機に、文学を楽しむ生活
 に。主には短歌を詠んだが、俳句、
 川柳などいろいろ嗜み、受賞歴も
 各種。仙、拓野の号は元々洗濯屋
 を営んでいたから。仙台市八木山
 在住、76歳だった。

写真



第5回目になる当コンテストは、今回から募集の形を一新しました。写真は2Lサイズの紙焼きとし、そしてそこに百字程度の文章を添えるというもの。そうすることで、見る方々により作者の意図やその場の空気感を味わっていただくことの試みです。作品の審査は写真と文章の両方を対象にしました。お陰様でバリエーション豊かな作品が集まったようです。被災地のリアルな一瞬に感動させられます。



優秀賞

高橋 達也 (宮城県石巻市)
『初春 多幸揚げ』

東松島では震災後毎年元旦の朝、震災からの復興と地域住民の幸せを願って、多幸揚げ大会を行っています。会場の野蒜海岸では、初日の出と多幸揚げを見に、多くの市民が訪れます。
(撮影・宮城県東松島市 / 2019年1月1日)



最優秀賞

庭野 陽子 (福島県いわき市)
『フタバダルマ空高く』

原発事故の後、双葉町の多くの住民はいわき市に避難し、今も多くの住民がいわき市にいます。毎年お正月には双葉の方々が恒例のダルマ祭りをいわき市で開いています。
(撮影・福島県いわき市勿来町酒井原 / 2019年1月13日)



優秀賞

斎藤 奨司 (青森県階上町)
『鐘への願い』

寺下観音の鐘に頭を入れ、願をかけて突いてもらうと、頭が良くなると伝わる鐘です。例大祭の日、いつまでも迷惑をかけたくないと強く願う母と、慈しむように鐘を突く娘さんの姿が素敵でした。
(撮影・青森県階上町 寺下観音 / 2019年5月19日)

佳作

守屋 正安 (宮城県仙台市)
『明るい未来へ！
元気いっぱいの子供達』



閑上に子供から大人まで楽しめるスポーツ施設が10月3日オープンした。白いトランポリンで震災を知らない子供達が元気いっぱい青空に向かって飛び跳ねていた。この子供達がかつての賑わいをもたらししてくれる。頑張ろう、閑上！
〔撮影・宮城県名取市閑上／2020年10月20日〕

佳作

藤島 純七 (宮城県仙台市)
『伝統の舞』



南三陸町に古くから伝わる祭り「入谷打囃子」。京都の祇園囃子の流れも汲んでおり、華やかである。大震災の年は休んだが、被災を乗り越え、翌年から復活している。今年はコロナのため、残念ながら中止となった。
〔撮影・宮城県南三陸町入谷地区／2019年9月15日〕

佳作

高山 大輝 (宮城県仙台市)
『未来のオブジェクト』



これらは東日本大震災で流れ着いたものです。深沼海水浴場には家族で潮干狩りをした思い出があります。再開の目途が立たないのが残念ですが、漂流物さえもふるさとにして今を歩む地域住民の勇ましさを含めました。
〔撮影・深沼海水浴場／2020年11月11日〕

佳作

門林 泰志郎 (福島県いわき市)
『御霊の浄土願う』



大震災を後世に伝えようと、あの日を忘れず海岸に立つひとり。犠牲になられた方々の御霊が安らかに浄土にあれと願う人。これはいわき市久之浜地域の願いでもあります。3・11を、この日を忘れないでください。
〔撮影・いわき市久之浜海岸／2018年3月11日〕

佳作

丹治 郁夫 (宮城県宮城県)
『祈り』



5月の連休の屋下がり、旧中浜小学校に隣接した慰霊塔「千年塔」に静かに手を合わせている二人の姉弟が目に残りました。
〔撮影・宮城県山元町／2019年5月2日〕

佳作

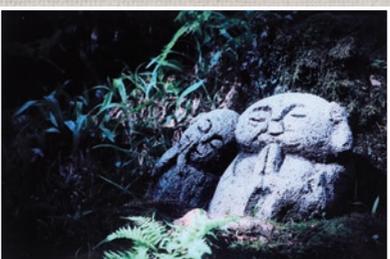
村上 淳 (宮城県気仙沼市)
『龍の目覚め』



あの津波から立ち直りつつある気仙沼の新たな観光スポット。巡礼地の龍の松が目覚めの時を迎えました。これからも気仙沼、日本、世界の平和を見守っていてほしいものです。
〔撮影・宮城県気仙沼市／2020年2月2日〕

佳作

高橋 強 (岩手県奥州市)
『陽のあたる場所から』



東日本大震災追悼企画として五百羅漢が作られました。木の根元の目立たない場所の像が気になった時、突然木の間からこの像だけに、光が差し込まれました。まるで撮影して欲しいかの様に。不思議な瞬間でした。
〔撮影・岩手県陸前高田市普門寺／2020年6月15日〕

佳作

市川 清一 (青森県八戸市)
『まけるもんか』



2015年11月に蕪島神社は火事になり全焼しましたが、地域の方で2020年春に再建されました。東日本大震災と二度の大きな災害にあいながら、見事に復興し地域の人たちの心のよりどころとなっています。
〔撮影・青森県八戸市蕪島神社／2020年4月7日〕

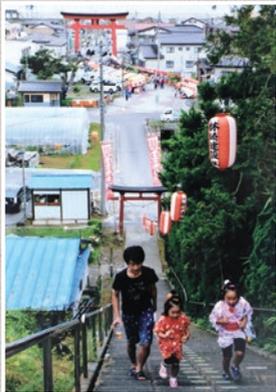
審査員総評

◆ 青柳 健二（写真家）

東日本大震災から10年経ったことと関係あるのだろうが、今回の応募写真を見ると、津波の痕跡を映した写真はほぼなくなり、その代わりに、新しくできた慰霊碑や施設を映した写真や、祭りの写真が多くなった。被写体のバリエーションが増えたことは、より日常に近いということなのかなとも思う。それと昨年のようなデータでの応募はやめて、プリントでの応募を再開したことで、レベルの点では去年よりは高くなった。去年、最優秀賞は該当者なしの残念な結果になったが、今年の上位受賞者の作品は力強く、未来を感じさせる写真が選ばれた。今回からは正式にコメントも審査対象となった。写真的に優れていても、このコメントから「東北お遍路写真コンテスト」の趣旨にあわないものは残念ながら選外となった。

佳作

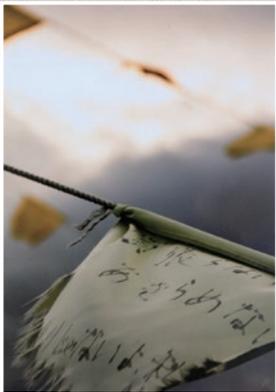
カマタニヒサト
（岩手県普代村）
『ご縁日の神社参り』



ご縁日の愛宕神社へ高い石段を登って参拝の親子が来た。眼下には防潮堤が高く構築され、復興が進む野田の町。大鳥居の下には露店も並び野田まつりで賑わう。
（撮影・岩手県野田村野田ノ
2019年8月25日）

佳作

小檜山裕行
（宮城県角田市）
『黄色いハンカチ』



黄色いハンカチに込められた思い思いの願い。10年目を迎えるその願いはかなえられたのだろうか。今も黄色いハンカチは増え続けている。東日本大震災から10年を迎えるその時までにはめきは止まらない。
（撮影・宮城県山元町坂元ノ
2020年10月13日）

◆ 結城 登美雄（民俗研究家／東北お遍路創生委員）

優れた表現力を持った写真でなくてもよい。被災地現場の何を受け留め伝えようとしているのか。そうしたメッセージ性を重視して作品の選考に当たった。近年、被災地を訪ねると画一的な風景ばかりが目立つ。巨大防潮堤、高台移転造成地と住宅、そしてそれをつなぐ道路の土木景観3点セット。それだけ見れば被災地は復興したと錯覚されがちだが、現地の人々は十年経った今も心揺れ、迷いながらの日々を生きているように感じられる。一枚一枚の写真に添えられたコメントは、しみじみと、そして時に心揺さぶられながら読ませて頂いた。被災地を何度も辿り歩き、受け留めたものを真剣に伝えようとする心がしっかりと伝わってきた。

東北お遍路俳句コンテスト・写真コンテスト賞品当選者発表

【最優秀賞】

被災地うまいもの1万円分

俳句の部

古市文字子様

写真の部

庭野陽子様

【優秀賞】

被災地うまいもの5千円分

俳句の部

鈴木睦子様／堀 卓様

写真の部

高橋達也 様／斎藤 奨司様

【佳作】

被災地うまいもの2千円分

俳句の部

岸浩子様／海老沢 法道様／小野豊様／吉田 ゆかり 様

平子 玲子様／福田 良光様／島 文庫様／伊藤 弘子様

羽矢 真人様／新谷 香織様

写真の部

守屋 正安様／藤島 純七様／高山 大輝様／門林 泰志郎様

カマタニヒサト様／小檜山 裕行様／丹治 郁夫様／村上 淳様

高橋 強様／市川 清一 様

【入選】

東北お遍路ガイドブック（第1巻）

俳句の部

村田 加寿子様／南 美智子様／及川 貞志様／菊池 留美子様

武田 本子様／阿部 澄江様／今野 紀美子様／板垣 美樹様

八島 敏様／翠風様／佐藤 嘉子様／早坂 ひろ子様／土生 良枝様

小野 邦子様／須藤 智恵子様／松永 宏子様／小西 徹様

大柳 純様／平塚 漁市様／宗像 眞知子様／國分 千恵様

森高 さよこ 様／新妻 洋子様／高萩 弘道様／花形 星子様

関口 芳男様／飛田 キミ子様／児玉 孝子様／吉村 りつ子様

明 惟久里様／伊藤 一泊様

写真の部

庄子 源六様／川村 裕信様／佐々木 均様／三浦 りょう子様

佐藤 史朗様／柏館 健様／横山 光太郎様／川 俣 悠 様

木村 東仁様／高平 但 様／小野 理恵様／峯村 遥香 様

橋浦 忠志様／海老沢 法道様／庄司 喜一 様／佐藤 広和 様

渡邊 興次 様

次回作品募集

● 第五回東北お遍路俳句コンテスト

題：自由題。ただし東北お遍路にまつわるもの

応募期間：2021年9月30日（必着）

● 第六回東北お遍路写真コンテスト

募集テーマ：風景・人物・祭りなど、東北お遍路にまつわる写真

応募期間：2021年12月15日（必着）

応募方法：写真は2Lサイズのプリントで、コメント（100字以内）と一緒に
お送りください。

▶ コンテスト作品の送り先：

〒976-0022 福島県相馬市尾浜字南ノ入241-3 東北お遍路コンテスト係



第四回東北お遍路俳句コンテスト・第五回東北お遍路写真コンテスト作品集

初版発行：2021年2月28日

編集・発行：一般社団法人東北お遍路プロジェクト

仙台市太白区長町三丁目9-10(エフエムたいはく内) ☎022-717-5805

URL <http://tohoku-ohenro.jp> E-mail info@tohoku-ohenro.jp

©Touhoku ohenro contest 2020 無断転載禁止